

都高P連会報 増刷版 「事例発表」

この増刷版は本年度事業として、「各学区や単位PTAの取り組み事例」を全都会長会で発表、併せて会報でお知らせするものです。是非今後の活動にお役立てください。
(7月29日 全都会長会発表)

第7学区 今、子どもたちに伝えたい大切なこと「飢える世界から、飽食日本への問いかけ」
学区全体研修会(2004/12/2) 発表：成瀬高校 前会長 増田 美香

講演会の内容

講師の神田先生が、実際見てきた現実と、今現在起きている社会の現状に沿って、原因と思われるものをデータを見ながら説明。しかし最終的には、人の心の中にあるものが変わる必要。「自分にしてもらいたいように、そのように他人にもする」このような一人一人にと投げかけられた。

PTAとして何ができるか(学区会長会で考えたこと)

スタートはここから

毎年第7学区では、全体研修会という形で講演会等を単Pの全会員対象に行ってきた。2004年度はどんなことをテーマとしたらよいか相談した。

そこで、会員一人一人に何らかの語りかけが出来たら、今必要とされるものは何か、家庭や家族で考えてゆくことが出来たらなど、会長会で私たちはいったい何が出来るのだろうかと熱く話し合いを持ってテーマを決めていった。結果として、「命に関わることで」「生きた体験を通して」ということでまとまる。(社会に起きている事件や私たちが抱えている問題の根本が何か考えた)

「これまで多くの講演会を聴いてきたが、実体験に基づいたものには、大きな説得力があることを感じる」ということに皆同感、講師は実体験を通して話して下さる方を捜すことにした。

・これで内容を確認してみると、「飢餓=直接命へ」「神田氏の実体験、20年にも及ぶ50ヶ国もの人々、自分の目で見てきた世界の飢餓の現状を報告し、日本人の生き方を問い直す・・・」の趣旨と合致のこと。

<講演会挨拶で・・・>

「今年度は特に、命に関わる何か、生きた体験を通して考えるような内容をという願いで、飢える世界への働きに長年携わってこられた神田先生の体験で、客観的に見えてきたものを、私たちに問いかけて下さることで、私たちの生き方そのものに、もう一度自分自身を問い直し、次世代に何を反映させて行くことが大切かを一緒に考える時となることを願っています」と投げかけた。

この講演会を終えて

質疑応答で・・・4人が質問されて

Q我々がこの飽食の時代に生きていて、具体的に我々がお手伝い出来ること、しなければならないことを教えて頂きたいのですが

A私たちが、あの方々にしっかりと目を向け、心を向けること。人間にとって一番辛いことは無視されることです。

アンケートでは・・・185枚の回収(参加者約550名：ミニコミ誌も用いて一般にも呼び掛け)

・無関心でなく、心を向けることの大切さを実感した。無関心と無知であることを知った。とてもショックな話で自己中心な自分を反省した。・考えることが少ない日々が気づき、どうやって生きてゆくのか、何が大切か忘れていたものを思い出した。・人として知らなければならないことを再確認。・家族で話し合ってみたく、知らせたい。・・・アンケートのほとんどにこのように多くの感想が記されていて、その全部をお知らせしたいほどでした。

反響として・・・16年度中に生徒向けにもある学校で同じ講演が実施された。

まとめ

この講演会を聞いた方は何かを感じて取って帰られたかなという感触を持ちました。私たちは、どんな講演であっても、自分に興味のないことに関して足を向けたり、関心を持つことは難しいものです。PTA全会員に還元できることを願ってリードしていく中で、子どもたちの健全な育成という目的に向かって活動していたとしても、多くの場合、それをより多くの方々と共有しながら歩むことの難しさを感じるのが現実です。私たちが、この講演会を通して感じたことは、たとえ関心を持つ方が少なく、わずかな反応であったとしても、その少ない方たちが感じたり知ったりしたことを、わずかな人でもシェアしたり、自分に出来ることを学んで、わずかな人でも実践していくことがある、そういうことがスタートとなり、少しずつ変わって行くことへつながり、その存在の意味と目的に沿って行くのではないかと、つくづく感じるものでした。

1 2 / 2 (木)

開演：1時30分（1時開場）

町田市民ホール

講師／神田英輔氏

日本飢餓対策機構総主事



1942年生まれ。横浜国立大学経済学部を卒業後、Trinity Evangelical Divinity School（米国）で修士号取得。1972年より青少年育成団体で奉職後、1984年より日本国際飢餓対策機構・総主事に就任。以来、自分の目で見てきた世界の飢餓の現状を報告し、日本人の生き方を問い

直す啓発活動をしつつ、アジア、アフリカ、中南米など約50カ国で飢餓や貧困に苦しむ方々の自助努力を支援する活動に従事。1991年には飢餓対策への貢献により、Warner Southern College（米国）より名誉博士号を授与。Hope International University（米国）学長特別補佐、岐阜県海津町名誉領事ならびに、米国アリゾナ州アボンデール市名誉顧問などもつとめる



● 飽食日本への問いかけ

飢える世界から、

今、子どもたちにも
伝えたい大切なこと

● 生き方をもう一度見つめ直してみましよう。

これまでの主な講演先

苫小牧商業高校（北海道）、水沢農業高校（岩手）、宮城学院高校（宮城）、能代文化学院（秋田）、県立豊科高校（長野）、県立坂戸高校、県立草加高校（埼玉）、都立国際高校、自由学園高等部、啓明学園高校、立教女子高校、明治学院高校（東京）、恵泉女学院高校（千葉）、関東学院六浦高校、向ヶ丘工業高校（神奈川県）、静岡英和学院高校（静岡）、県立稲沢高校（愛知）、同志社国際高校（京都）、近江兄弟社高校（滋賀）、稲沢高校、東淀川高校（大阪）、啓明女学院高校（兵庫）、梅光女学院高校（山口）、西南女学院高校（福岡）、鎮西学院（長崎）、九州学院（熊本）、鹿児島高校（鹿児島）、清和女子高校（高知）、八重山高校、辺土名高校（沖縄）。その他、大学・専門学校43校、高校60校、中学55校、小学校60校。

主催／東京都公立高等学校第7学区PTA連合会

後援／東京都公立高等学校PTA連合会・町田市教育委員会・日野市教育委員会

お問い合わせは、042-788-7101（増田）まで。